lococcus aureus（MRSA）などを含めた各種臨床分離株に対する抗菌効果については具体的な報告はなされていない。また臨床での応用を踏まえて、抗菌活性が得られる各種条件についても検討を行ったので報告する。

【材料および方法】 供試菌株は2013年1年間に分離された臨床分離株18菌種、113株および標準菌株5菌種を使用した。本薬剤の各種細菌のMinimum Inhibitory Concentration（MIC）を判定した。MICの測定はClinical Laboratory Standards Institute（CLSI）による微量液体希釈法に従った。さらにMRSAについては有機物添加時の影響、消毒剤としての濃度、温度、接触時間による影響を検討した。またMRSA（MIC 0.5 μg/ml）16株を用い、抗MRSA薬であるVCM、および本来はMRSAに無効なCEZとの併用効果について検討した。

【結果】 各種細菌のクリスタル紫に対するMICは、MRSA含む*Staphylococcus*属が0.25-1 μg/ml、*Streptococcus*属、*Enterococcus*属は2-4 μg/ml、*Corynebacterium*属は0.06-0.13 μg/ml、Gram negative rodsは8-256 μg/mlであった。MRSA 29株について蛋白の影響を確認するため、0、1.0、2.5、5.0 g/dlの各濃度のアルブミン存在下で検討した結果、アルブミン濃度依存性にMIC値の上昇が認められた。さらに血液の影響を確認するため、0、5、10、20%のヒト血球存在下で検討した結果、MIC値は軽度の上昇のみであった。消毒薬としての使用条件を検討したところ、クリスタル紫は37°Cにおいて1%濃度、接触時間30秒後で菌の発育を抑制し、0.2% 1分、0.04% 30分の条件下でも菌の発育を抑制した。抗菌薬との併用効果については、VCMとの併用では併用効果は認めなかったが、CEZについては2管以上MICが感性に移行した株が16株中6株（37.5%）認められた。

【考察およびまとめ】 今回の検討により、クリスタル紫はグラム陽性菌全般に比較的良好な抗菌効果を有することが明らかとなった。特にMRSAに対しても抗菌効果が認められたことから、今後の臨床応用の可能性が示唆された。

P2-32.

Multivariate analysis of prognostic factors in patients with rapidly progressive alopecia areata

（皮膚科）
○内山　真樹、江草　智津、保母　彩子
入澤　亮吉、山﨑　正視、坪井　良治

円形脱毛症（以下、AA）は、頻度の高い後天性脱毛症であるが、重症度は症例により様々であり、その予後と適切な治療法を決定する因子は明らかではない。

我々は、過去3年間に東京医科大学病院皮膚科を受診した1,030例の新規AA患者を対象とし、長期間フォローできた症例において、患者・治療因子の予後への影響を解析した。初診時、毛髪の牽引試験により被髪頭部の広範囲にわたって易脱毛を認めた症例、もしくは6ヵ月以内に発症または悪化し、全頭の広範囲にわたって脱毛を生じた症例を急速進行型AA（以下、RPAA）と定義し、他の病型のAA患者と患者背景、予後を比較し、さらにRPAA患者における予後決定因子について多変量解析を用いて検討した。

その結果、新生軟毛陽性群は、すべての病型において改善率と治癒率が有意に高く予後が良い因子であり、若年発症群と長期罹患群は、治癒率が有意に低く、再発率が有意に高く予後不良因子であった。また、RPAA群は初診時の脱毛重症度、治療法に関わらず予後が良いことが判明した。RPAA患者においては、AAの過去歴を有している群が予後不良因子であった。

P2-33.

腫瘍抗原結合ナノ粒子による効率的な免疫反応の誘導―新規癌ワクチン開発に向けて

（免疫）
○矢那瀬紀子、豊田　博子、秦　喜久美
水口純一郎

従来より、わが国ではワクチンにアルミニウム塩がアジュバントとして添加されている。アルミニウム塩は抗体産生補助能も優れているが、副作用の問題がある。そこで安全で有効なワクチンの供給を目